

陶磁器製造 絵皿

「陶磁器製造」における伝統技術技法による絵付け（下絵付け）及びデザインの作業です。

対象者

小学校
4・5年生

所要時間

講義・実演 30分
体験 90分

材料リスト

- 素焼き皿 六寸皿(径18cm)
 - 絵具 呉須(コバルト)
 - 絵付け図案用紙 A4サイズ普通紙
- 参加者
数分

使用工具リスト

- 絵筆 陶画筆(中五)
 - 絵具皿 三寸皿(径9cm)
 - 水入れ 湯呑(径7cm×高9cm)
 - 鉛筆 HB
 - 新聞紙 見開き1枚分
- 参加者
数分

講義

佐賀の焼き物の歴史や製法などについて、また、実演とともに下絵付けの技法や仕事の楽しさ、喜び、難しさなどについて紹介。

体験した児童・生徒の感想

- 筆を使うのが難しかったけど、きれいに描けて楽しかったです。
- 最初は緊張したけど、書いているうちにだんだんと楽しくなり、終わったときに「やったー」と思いました。
- 皿のふちを塗るときが難しかったけど、マイスターが教えてくださって、上手にできました。
- 講師の先生が、色の濃さや描き方を教えてくださったので、大変良かったです。
- 描いた皿が焼きあがって、戻ってくるのがとても楽しみです。

担当教員の感想・要望など

- 農村地域の小規模学校であり、児童数も少ないことから、子どもの経験知を豊かなものにしたいと考え、保護者とともに取り組む体験教室を実施しました。
- 佐賀の特産品として名高い陶磁器に関して、絵付け体験を行うことにより、ものづくりへの興味・関心を高めるとともに、ふるさとへの愛着心をはぐくみました。
- 細い筆で描くのはなかなか難しかったのですが、とても楽しく夢中になりました。子どもたちにとっても、大変すばらしい体験であり、良い思い出になりました。
- 自分でやってみると、思うように筆が使えず、マイスターの技のすごさを身をもって知ることができました。



作業工程の概要

下準備

加工・
作業

仕上げ

- 呉須絵具を一人ずつの絵具皿に入れ、並べておきます。
- 一人当たり、絵筆1本、水入れ碗1個を並べておきます。
- 素焼き皿は割れやすいため、折った新聞紙の上に一人1枚ずつ並べておきます。
- 参加者は普通紙に絵付けの図案を描いておきます。

- マイスターが絵付け作業の流れや注意事項を説明します。
- 素焼き皿の表面に、考えてきた図案を鉛筆で書き写します。
- 書き写した鉛筆の線をなぞって、絵筆を使って呉須絵具で着色します。
- 呉須絵具の藍色の濃淡は、水入れの水で調整します。
- 絵付け皿裏面(高台内側)に制作年月日と氏名を書き込みます。

体験教室後にマイスターが行う仕上げ作業

- 絵付けが終わった皿に釉薬をかけます。
- 釉仕上げを十分に行います。
- 窯で焼成します(温度1300℃で約15時間)。



学校側との事前調整事項等

- 体験教室の会場となる教室の机の広さや水回り設備などの確認を行い、講義、実演、体験等の会場レイアウトを決めておきました。
- 児童と保護者の「ふれあい体験教室」とするため、教師だけでなく、保護者代表にも事前講義により十分に説明をしました。
- 参加者が体験教室以前に絵付けの図案を考えておくよう、事前に絵付け図案用紙を配布しました。

安全作業上の注意事項

- 素焼き皿は、もろく割れやすいため、丁寧に扱うよう注意を促します。
- 呉須絵具(コバルト)が口や目に入らないように注意を促します。

指導者からのアドバイスなど

- 実物を提示しながら、専門用語を分かりやすい言葉に置き換えて話します。
- 安全上の注意では、素焼き皿が大変もろく、割れやすいことを事前に伝え、緩衝材の役割を果たす新聞紙の上で描くように指示します。
- 絵付けの筆が、学校の授業で使う絵筆と異なることを伝え、細い線や塗りの際の筆の使い方の違いを実演しながら、理解させることが大切です。
- 児童生徒が描きたい図案どおりに絵筆で描くことができるようアドバイスをし、ものづくりの楽しさを体感してくれるよう配慮しました。

協力

- 佐賀県技能振興コーナー (0952-24-6667)
- 市川 龍男 (ものづくりマイスター：陶磁器製造)
- 小城市立三里小学校
- 佐賀県陶磁器技能士連合会

